

# 集中治療部

## 1. 診療科としての特色

- 重症患者の病態生理を理解し、循環管理、呼吸管理、鎮静・鎮痛管理、代謝管理、栄養管理、早期離床などの全身管理を学ぶことができる。
- 多職種とコミュニケーションをとり、治療方針を決定するプロセスを学ぶことができる。
- 集学的治療中に終末期に至った患者の倫理的諸問題を検討することができる。

## 2. 研修目標

- 重症患者の全身状態を把握し、病態生理と鑑別診断に基づいた治療方針をたてることができる。
- 呼吸不全患者に気管挿管の適応を判断し、安全に実施できる。
- 人工呼吸器、非侵襲的陽圧換気（NPPV）の設定が行える。
- 人工呼吸器離脱と抜管可否の判断ができる。
- 適切な鎮静、鎮痛管理が行える。
- せん妄の診断及び、予防を含めた対応ができる。
- 補助循環（大動脈内バルーンポンピング、補助人工心臓）の仕組みを理解し、管理できる。
- 持続的腎代替療法の仕組みを理解し、適応の判断と管理ができる。
- Swan-Ganz カテーテルを含む各種モニタリング装置から、重症患者の血行動態を把握できる。
- 敗血症性ショックの病態生理を理解し説明でき、循環管理や呼吸管理を実施できる。
- ARDS の病態生理を理解し説明でき、呼吸管理を実施できる。
- 急性心不全の病態生理を理解し説明でき、循環管理を実施できる。
- 術後患者について、手術内容に応じた術後合併症に注意した管理ができる。
- 主治医・担当医やコメディカルと積極的にコミュニケーションをとることができる。
- 多職種カンファレンスに参加し、患者の治療方針や倫理的問題について話し合うことができる。

## 3. 到達点

- 重症患者の病態生理や管理について理解し、診断と治療が行える。
- 多職種と積極的にコミュニケーションをとり、治療方針の決定に参画することができる。

## 4. 評価

- 多職種回診時に担当患者の症例をプレゼンテーションする。
- 研修終了時に、経験症例に関する発表を行う。